

第3回 平成24年6月14日(木)

第3回の一流塾は、講師に堀新太郎氏(ペインキャピタル・ジャパン会長、元ペイン・アンド・カンパニー 日本代表、現名誉顧問)と、大山健太郎氏(アイリスオーヤマ㈱ 代表取締役社長)をお迎えました。



講師 堀 新太郎 氏

講師 大山 健太郎 氏

堀氏には、『宝庫の日本企業。自縄自縛の日本企業。』と題し、ペインでの豊富な経験を踏まえて、多くの日本企業が抱える問題点に関する分析をご披露頂きました。近年の経済危機は未曾有のチャンスの時でもあり、日本企業にはチャンスを活かす高いフルポテンシャルがあるにも関わらずそれを活かしていない理由について、P・F・ドラッカーの理論等を切り口に解説頂くとともに、フルポテンシャルを追求するための経営リーダーシップの意味合いについてもお話頂きました。講義後も活発な質疑が行われ、塾生からは「固定概念を捨ててファクトに基づく経営の大切さ、スピードとインパクトのある施策に集中する大切さについて痛感した」、「経営トップは環境を整えプロデュースすることが使命、という言葉に感銘を受けた」等の声が寄せられました。

大山氏には、『ピンチはビッグチャンス』と題し、ご経験に裏打ちされたお話を様々な具体的事例を織り交ぜながらご披露頂きました。大山氏は、先代の父親の急病で家業承継を決意した高校卒業当時やオイルショックの影響という大きな2度のピンチをチャンスに変え、不況に強く変化に対応できる経営でメーカー機能と問屋機能を併せ持つ独自の「メーカーベンダー」としての業態を作り上げて来られました。オイルショックの経験でいかにマーケットインの発想が重要であるかに気付き、自ら全国約140万社のデータを分析して園芸という新しい分野に辿り着いたエピソードや、生活者の代弁者として需要を創造するというユーザーインの発想での新商品開発方針の他、新商品比率や稼働率の考え方等変化に対応できる経営の仕組みについてわかりやすくご披露されました。また最後に、上場をしない理由や日本のエネルギー事情を踏まえたスマートライフについての持論についても言及されました。講義後も、新商品比率の高さや物流等に関連して活発な質疑が行われ、塾生からは「ユーザーイン視点での商品開発や環境変化に対応するスピードを支える経営の仕組み作りの重要性を痛感した」、「ホンモノの事業家・経営者の理念、情熱に触れるお話を聞いて感動した」等の声が寄せられました。



大山氏 乾杯のご挨拶



特別ゲスト 野田 聖子 氏



講義後の懇親会では、まず冒頭に大山氏に乾杯のご挨拶を頂き、東北の復興に対する熱い想いや取組みについてご披露頂きました。特別ゲストの野田聖子氏(衆議院議員 元郵政大臣、元消費者行政推進担当・宇宙開発担当大臣)には忙しい国会日程の合間をぬってご出席頂き、日本が抱える人口減少のもとたらず危機感や、年金問題や原発問題についての持論をご披露頂きました。その後も講師・ゲストと塾生との自由闊達な意見交換が行われ、会場は大変盛り上がりしました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、次回の合宿に向けての期待や、講義内容について塾生同志で本音での議論が交わされる場面が見られる等様々な話題で一同大いに盛り上がり、塾長と塾生の交流が深夜近くまで続きました。